

弥生ヶ丘 de まちだのへそまつり 地域と博物館が連携 歴史と文化を楽しむイベント開催

2019年6月18日掲載



「弥生ヶ丘 de まちだのへそまつり」の様子

本町田の歴史を体感するイベント「弥生ヶ丘 de まちだのへそまつり ～本町田の歴史と文化を楽しむ～」が2019年5月12日、町田市立博物館・本町田遺跡公園・弥生ヶ丘自治会館一帯で開催されました。

イベントは、地元の弥生ヶ丘自治会の住民と同地区のファンとして地域に関わっていてその思いに賛同した人たちが、市立博物館と連携して、「縄文」をはじめとした町田の黎明期や、町田の「和」の歴史・文化に触れてもらおうと企画したものです。

6月の閉館を前に最終展を開催している市立博物館ではギャラリーウォークや演奏会を、貴重な植物や昆虫が生息するふるさとの森では森林ウォークを、遺跡公園では遺跡のガイドウォークをはじめ、子供向けの昔あそびや工作の体験、和太鼓や尺八の演奏などが披露されました。また、自治会館周辺では地域住民らによる焼きそばや豚汁、フランクフルトなどの飲食の売店も出展され、多くの人でにぎわいました。



自治会館周辺では焼きそばや豚汁、フランクフルトなどの飲食の売店が出展

イベントの企画の中心となったNPO 法人レ・マーニの石井邦典さんは「この地域で45年間文化を発信してきた博物館の閉館というピンチを、チャンスに変えるための未来に向けたイベントにしたかった。自治会のみなさんとこの地域を大事に思う応援団、博物館がそれぞれできることをして、化学変化が起き、地域の資源を活用した実感を伴う学びの場を提供できたと思う。まさに“まちだ〇ごと”で取り組みました」と手応えを語りました。



NPO 法人レ・マーニの石井邦典さん(左)と今井圭介・町田市立博物館副館長(右)

今井圭介・町田市立博物館副館長は「地域の方が博物館を愛してくださっていることを改めて感じました。地域が自らの力でやっていくという姿勢が素晴らしいと思います。市民の方々の盛り上げで、市の施設がさらに生きてくるという可能性を感じられるイベントとなりました」と感想を述べました。

企画に参加した町田とんぼ少年団指導員の藤代陽一さんは「本町田で餅つきの大会をできないかと検討していたら、弥生ヶ丘でイベントをやりたいという話があるので、一緒にやることになりました。本町田は元々宿場町で町田市の真ん中にあるので『まちだのへそ』ということで『へそまつり』と名付けました。自治会だけでなく、いろいろな団体が協力して実現したのがよかった」といいます。



町田とんぼ少年団指導員の藤代陽一さん(左)と町田第五小 PTA 会長の秋田史津香さん(右)

ボランティアで参加した町田第五小 PTA 会長の秋田史津香さんは「住民の方々には博物館への思いがあり、閉館となることは非常に寂しいですが、地域がまとまり、住民自らこの地域を活気づけていこうというきっかけとなるお祭りになりました。これからも続けていけるといいですね」と話しました。

子供たちに昔遊びの体験を提供していた大野光子さんは「お天気に恵まれてみんな楽しく参加してもらえました。地域の魅力を有効活用して、継続的にできればいいと思います」と語りました。



昔遊びの体験を提供していた大野光子さん(左)と輪投げを楽しむ家族(右)

最近本町田に転居してきたという 3 歳の男の子を連れてご家族は「チラシを見てきましたが、こんなにいい公園があるなんて知りませんでした。これを機にまた遊びに来たいですね」と笑顔を見せてくれました。

地元・弥生ヶ丘自治会の飯田良隆会長は「博物館の閉館という地域課題をきっかけに、私たちが住む弥生ヶ丘の魅力をアピールしたいと考え、博物館と遺跡公園を連動したイベントをやるということになりました。50 年の歴史を持つ自治会でも初めての試みで、昨年の秋から会議を重ねて準備をしてきました。初めてのイベントにも関わらず、多くの人に集まってもらえてよかった。今後も、地域が一つになって、1 回だけでなく、2 回、3 回と続け地域を盛り上げていきたい」と話しました。



弥生ヶ丘自治会の飯田良隆会長

「弥生ヶ丘 de まちだのへそまつり」の様子

